

八潮高校が編集しました

八潮から世界へ

カシオペア3rd オルガニスト 大高清美さんにインタビュー

♪ 大高さんプロフィール ♪



大高 清美 (おおたか きよみ)
10月18日生まれ
〈経歴〉
・6歳からオルガンを始める。
・高校卒業後、財団ヤマハ音楽院エレクトーン科に入学。
・財団ヤマハ音楽院を卒業後はヤマハ音楽教室の講師になり7年間勤める。
・1998年にデビュー。
・2012年にフュージョンバンド「カシオペア3rd」に加入し、活動中。

🎤 大高さんにインタビュー 📖

Q プロになることを意識したのはいつごろですか？

A プロになろうとしていたわけではなく、エレクトーン、音楽が好きで、それを買っていたらそうなっていました。

Q プロになって大変なことは何ですか？

A 体調を崩せない、倒れられないことですね。誰かが自分の代わりをできない職業ですし、聴きに来てくれるお客さんのためにも、そういった面を表に出すことができないのが大変なところですね。

Q 高校生のころ、一日どのくらい練習していましたか？



A 高校生のころはバリバリ練習していましたよ。最高で16時間、食事もせずにオルガンを弾いていましたね。

Q それって辛くなかったですか？

A いえいえ、楽しくてずっと1曲だけを練習していました。家に帰ったらエレクトーンばかり弾いていたので、母親に「友達と遊んで来なさい」と怒られるほどでした。

Q 高校生のころと今とでは練習方法は変わりましたか？

A 変わりましたね。高校生のころはテクニックなど肉体的な面ばかり練習していました。当時の練習方法は、「曲を覚えたと思ったらいったん休憩して、リセットして、それをもう一度再現できたら完成。できなかったらまた一からやり直し」の繰り返しをしていました。今は表現力や音楽性を磨くこと、例えば、自然を見たり、芸術作品を観に行ったり、そういうことに時間を使っています。

Q そういうところから曲作りのインスピレーションを得たりしているのですか？

A そうですね。自然的なものを見るとそういう曲を作りたいくなります。

Q 高校生のころに好きだったミュージシャンは誰ですか？

A 私は中学生のころからYMOが好きでしたね。当時日本になかった音楽感にとっても衝撃を受けました。洋楽ではベイシティローラーズが好きでしたね。

Q 大高さんにとって良いドラム、良いベースとはどういうプレイヤーですか？

A 揺るがない人たちですね。ドラムとベースは世の中でいう土地なんですね。ギターとかキーボードはその上に建っている家とか建物だと思ってください。ドラム、ベースの土地、土台がしっかりしていればどんなに大きな地震があっても、その上の家は崩れないでしょ。地味に見えるけどバンドにとっても大切なパートなんです。



Q 縁の下の力持ちというわけですね。では、バンドを維持するために必要なことは何ですか？

A 音楽、芸術分野って正解のない世界だから、自分の音楽価値観が正しいとは限らないわけです。正解のない分野だからこそお互いのレベルや音楽価値観を尊重して、歩み寄りながら話し合うことが大切だと思います。芸術は一生勉強だと思っていますので歩みを止めるわけにはいかないんです。今、良いと思っている練習方法も10年後にはもっと良い練習方法が得られて、今とは価値観が違っているかもしれないけれど、この分野はそれで良いと思っています。とにかく、自分が自分となるとバンドってすぐ崩壊しちゃうんですよ。

Q バンドのなかで演奏するオルガニストとして心がけていること、大切なことは何ですか？

A 邪魔をしないことです。ギター、ベース、ドラムの3人で音楽が成り立っている瞬間ってあるわけです。そういうときには弾かない。逆に「サウンドが薄い」と感じたら、弾くということを心がけていますね。このサウンドに何が足りないかを考えて邪魔にならないように良い演奏をすることを心がけています。

大高さん、ありがとうございました。

大高さんとちょこっと市内散策



今年5月に開校した「中川やしお水辺の楽校」に行きました。朝から降り続いていた雨もやみ、記念撮影をすることができました。



今年7月に全面開園した「やしお駅前公園」に行きました。やしお駅前公園にあるステージで、エアバンドをやりました。

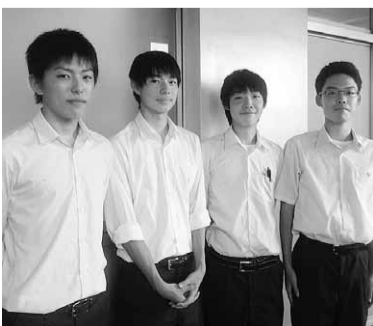
八潮市出身のオルガニスト、大高清美さんにインタビューをお願いしたものの、お忙しい方なので、きつと実現しないだろうと思っていました。しかし、まさかのOK。インタビュー当日までドキドキしていました。大高さんはとても優しく、僕たちの慣れないインタビューに対して、丁寧に、そして真剣に答えてくださいました。そういうところが伝わったらいなと思いつつながら記事を書きました。若者向け広報紙作成は、生徒会役員であると同時に軽音楽部員の僕たちにとっても貴重な体験になりました。このような機会を与えてくださった、大高さんと八

八潮高校

編集後記

潮市役所の皆さんにとっても感謝しています。

右から、
森 勇樹
松本 詢
鯉川 知海
深田 直喜



コラム

軽音楽部

八潮高校の軽音楽部は現在約30人、8つのバンドが活動しています。私たち、若者向け広報紙編集委員も4人中3人が軽音楽部に所属しています。

今年の文化祭(潮祭)も、会場に入りきれないくらいのお客さんが来てくれて、とても盛り上がりました。私たちもいつか、大高さんのような世界に通用するミュージシャンになれるようにがんばります。



潮祭でのバンド演奏